

古高取通信

平成23年 9月

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



古高取

目次	
古高取の魅力伝える	2
新たな一歩を！	2
新任の紹介	2
古高取の広場	4
活動の記録	4
なんでも掲示板	5

『まっすぐに』

室町時代のトンチの一休さんの話。京都の街中（まちなか）に見事な枝ぶりをした松の前の立札を立て「この松をまっすぐにみた者に褒美を取らす：一休」と書いた。町衆はそれぞれに見所を変えてこの松のまっすぐに姿を探した。ある者は梯子まで持ち出した。そして首をひねった。そこへ本願寺の蓮如が通りかかった。「この松は曲がっておる。これがまっすぐにみる眼じゃ。」と言って立ち去った。これを聞いた一休は笑ったと…。

今年の春に谷尾美術館にて「古高取・古唐津展」を開催し、あまたの伝世品に間近かにふれる事となった。ひょうげものといわれる織部風の不思議な美の世界にとりこまれてゆく。そうすると、自分も随分いびつで傷だらけで曲がっている事に気付き始めた。よかった。

鷹取 宗恵

古高取の魅力を伝える

やっぱり凄い内ヶ磯窯

小山 亘

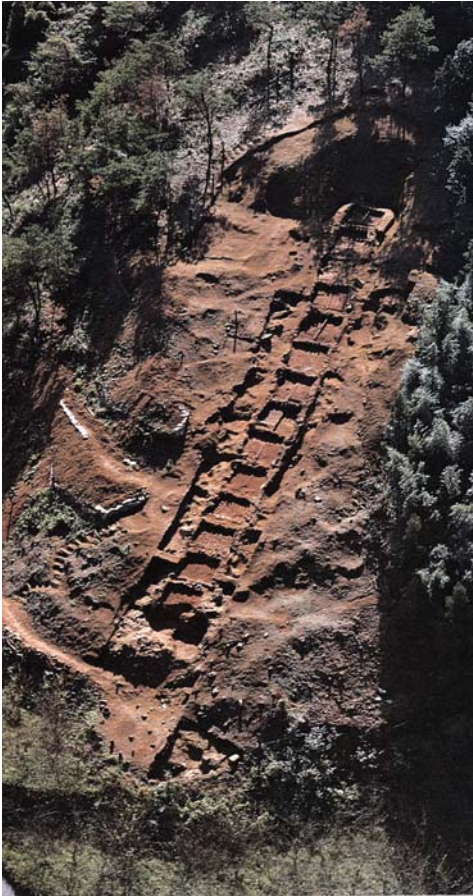
福岡県直方市内に所在する内ヶ磯窯には「天下一の織部窯」という言い伝えがある。これは備前焼二代目藤原楽山先生からうかがったものである。そもそも織部窯とは「茶湯名人」古田織部の好みで焼かせた窯という意味である。

内ヶ磯窯からは、織部の好みかかなりの量で出土する。まさに織部窯である。この織部窯内ヶ磯に関わったといえる史料もしくは形跡を遺す茶人は、古田織部をはじめ小堀遠州、金森宗和、江月宗玩、神屋宗湛、島井宗室といった歴史

上に名を遺すそうそうたる顔ぶれである。

内ヶ磯窯は、福岡藩初代藩主黒田長政と父如水がいたからこそこの世に存在したのである。その内ヶ磯窯跡からは、他の窯から出土することが珍しい茶席の大道具水指やその蓋がそれぞれ二〇〇点以上も出土している。また内ヶ磯窯跡からの出土品は膨大で、それが掲載されている発掘調査報告書はやはり膨大だ。内ヶ磯窯にまつわるすごいことは、これだけにとどまらない。

内ヶ磯窯は「天下一の織部窯」という言い伝えがこの窯にふさわしいことが理解できる。ただ残念なことは現在窯跡が福智ダム湖底に沈んでいることである。



直方文化財調査報告書 第五集より

「てわっさ」を楽しみ、「じよんのび」の日々を

柴田 ムツ子

福島県飯館村に住む友から退職の挨拶状が七月末に届いた。本来ならば三月末の定年退職で、五月頃には届くであろう挨拶状が、友は、東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、定年が四月末に延長され、さらに六月末まで、飯館村災害対策本部勤務を余儀なくされ、未だ収拾の見通しも立たない不安な状況のなか、六〇年住み続けた飯館村を離れ、福島市内の小さなアパート住まいの毎日である。頑張っている友に、「頑張つてね」とはいえないが、久しぶりの電話に私が元気をもらったことがうれしかったので紹介させていた。だきたい。

福島地方では、手仕事のことを「てわっさ」と呼ぶそう。自分の作ったものを「たいした事をやっているわけではないが、ちよつとつくつてみた」という意味らしい。「自然の恵みをいただいで作らせてもらっている」という東北人らしい奥ゆかしさがこめられた美しい言葉である。手仕事を通して人と人が出会ってわっさの里で

「会津工人まつり」に参加した友は、「すばたさん、会津の相馬焼きは、すんばらしいんだよ、あつたかいだべ」と屈託のない東北弁でしゃべる。

「貴女の退職祝いに焼いた器を送れる日が来たら送るからね」と梱包した箱を見ながら、早くその日が来るのを祈るばかりであった。東北美人の友は日本酒が大好きで、以前にぐい飲みをプレゼントしたら、跳び上がるように喜んだ光景が忘れられない。

表題の「じよんのび」は、新潟県柏崎市の友から、「越後には、じよんのびと言う言葉があつて、のびのび、のんびりの最上級のことばだよ」と伝えられた大好きな言葉である。

四〇〇余年前の先人達は、自然の恵みに感謝しつつ、生活している場所で材料をとり、道具を作り、壊れたら修理し、やがてはその土地に還すという循環型の生活を想



像するだけでも楽しいものだ。今流で言えばエコ生活であろうか。やきものは、本来的に自然なものであるということばは、技術的な面でやきものの世界に長く浸ってきたある有名な陶芸家の言葉が心に残る。

古高取を伝える真髓がそこにあるのではないだろうか。

新たな一歩を！

平成二十三年定期総会が、五月二十九日直方市中央公民館で開催された。

今年、最大の課題である「活動の拠点づくり」の取り組みを強化することを中心とした活動と、三年後に迎える内ヶ磯開窯四〇〇年祭に向けた議論を開始することを確認した。

記念講演で、直方市賑わいまちづくり協議会会長 永富政英氏より、直方のまちづくりの中核としての「古高取を伝える会」の活躍を期待する熱いメッセージを貰いました。



新役員は次のとおりです。

監事	会書	事務局	理事	副会長	会長
柴田 ムツ子	東 陽一	吉田 佳代子	倉田 豊子	隅田 知明	末松 登志子
			向野 志津絵	副島 邦弘	小山 亘
			荻迫 喜代子	梅本 靖	永富 セツ子
					鷹取 宗恵
					能間 瀧次

新任の紹介

ご挨拶

向野 志津絵

平成二十三年定期総会にて役員改選が行われ理事としてお手伝いをさせて頂いたこととなりました。

古高取には以前より非常に興味はありましたが詳しい知識がなかったもので、これを機にしっかりと勉強し、直方の地で発祥した歴史ある古高取の魅力を多くの人たちに伝え、更に次の世代へとつなげていくため、また「古高取を伝える会」のますますの発展と、会員の皆様方の『輪と絆』を高め、直方の住みよいまちづくりに貢献するため、微力ではありますが努力をしてまいりたいと思っておりますので、ご指導の程よろしくお願いたします。



古高取焼から始めた楽しみ

倉田 豊子



高取焼開窯四百年祭の折りに初めてマイ茶碗を作り、その後は名前だけの会員でした。昨年からは焼物に少し関心を持つようになってきました。昨年の基礎研修講座で神屋宗湛日記の解説を聞き、茶会の日記とはこういうものなのかと、ひょうげという言葉が初めて日記に書かれていたとか、副島先生のそんな話が心に残っていました。四月の展示会では受付をしながら、繰り返し古高取焼・古唐津焼の形や文様を楽しみました。よく四百年間も割れずに残っていたものだと感心しながら。同時に宅間窯、内ヶ磯窯の歴史や発掘の様子等も冊子を読み返し、少しですが知る事ができました。焼物にまつわる歴史や話を聞くと色々なことが繋がってくるのでおもしろく

感じます。また、陶芸教室で作った花瓶や皿は作る楽しみ、使う楽しみがあります。今後、焼物を通して多くの楽しみが見つかりそうです。

古高取の広場

活動の拠点を創ろう！

副島 邦弘

当会の「活動の柱」として

- ① 活動の拠点づくり
- ② 古高取の知識を深める
- ③ 古高取の魅力を伝える
- ④ 次世代へつなげる

この四点を上げ、それに基づき部会をつくり実際に活動している。その内容は、②は学習部会、③は広報部会、④は焼物教室部会で、それぞれ担当部会となり、年度ごとに事業を実施してきている。

ここで一番の問題である①の活動の拠点づくりである。

「古高取資料館（仮称）」の設置について、ソフトの面から描いて見よう。

この資料館は、その中心に「筑前



直方中央公民館

国焼の高取焼」を置いて考えることが第一である。

資料館は「もの」と「人」とを結び付けて、ひいては「まちづくり」の活性化をはかるために「見せる」ことが重要になってくる。

- (イ) 実物による実感教育の場へ
- (ロ) 現地教育・現地踏査の場へ
- (ハ) 体験学習の場へ
- (ニ) 有機的・総合的学習へ、そして環境教育の場へと進んでいく。

資料館活動には研究・保存・教育・娯楽を含んで、子ども達のエ

ネルギーを結集させて楽しませ、その若さを発散させる場でもある。このことを導入させることが大切となる。

実際に資料館を設置する場合の心得と想ってもらいたい。これからは新しい資料館のハード面とつながってくる。

「意見をお寄せください」
活動の拠点づくりに関する、皆様のご意見をお聴かせください。宜しくお願いいたします。

活動の記録

● 子供焼物教室

前期(平成二十三年五月〜七月)

今年度の「子ども焼物教室」も前期の八校が終了いたしました。毎年、小学校を訪れて子ども達と触れあうことも楽しみのひとつですが、今年度で四年目となりましたので、最初にお茶碗を作成した子ども達は、もう高校生になりました。本当にあつと言う間の四年間でしたが、少しは直方の古高取の魅力が伝えることが出来たのでは



ないかと思っています。

永富 セツ子

「第一回」

「第二回」

「第三回」

「第四回」

〈平成二十三年五月十七日(火) 場所：直方西小学校

〈平成二十三年六月二日(木) 場所：感田小学校

〈平成二十三年六月五日(日) 場所：新入小学校

〈平成二十三年六月八日(水) 場所：直方南小学校

「第五回」

〈平成二十三年六月十六日(木)
場所：直方東小学校



「第六回」

〈平成二十三年六月二十四日(金)
場所：直方北小学校

「第七回」

〈平成二十三年六月二十八日(火)
場所：中泉小学校

「第八回」

〈平成二十三年七月十一日(月)
場所：植木小学校



●平成二十三年年度 定期総会
および記念講演

〈平成二十三年五月二十九日(日)
十三時三十分～十五時三十分〉
場所：直方市中央公民館 第三学習室
記念講演：「のおがたのまちづくりと
古高取」
講師：直方市賑わいまちづくり推進協議会
会長 永富 政英氏



平成二十二年度の報告と二十三年度の計画が承認されました。これからも会員の皆さんの声を真摯に受け止め充実した会の運営に努めて行く決意です。

●古高取基礎研修講座
(平成二十三年七月～九月)

今年度の「古高取基礎研修講座」は、「福岡県のやきものの概説(近世)」をテーマに福岡県の様々なやきものを知ること、あらためて古高取の魅力等に触れています。残りは二回ですが、皆様のご参加をお待ちしております。

副島 邦弘

～～～～～

「第一回」

〈平成二十三年七月三十日(土)〉
「筑前国の近世のやきものの概説」

「第二回」

〈平成二十三年八月二十七日(土)〉
「豊前国の近世のやきものの概説」

「第三回」

〈平成二十三年九月十七日(土)〉
「筑後国の近世のやきものの概説」

※場所は、いずれも「えみくる」(直方市中央公民館横)。時間は、十四時～十六時です。



なんでも掲示板

●裏千家しろやま青年部来直

〈平成二十三年九月十八日(日)
場所：アートスペース谷尾

九月十八日、鹿児島県の裏千家しろやま青年部四十二名が「高取焼」に関する学習を目的に来直されました。

九州新幹線を利用した「芦屋窯」、「高取焼」、「上野焼」の里を巡る日帰りツアーで、時間は三十分程度でしたが、最初の十分は発掘品の

展示見学に、残りの時間は「直方の高取焼」即ち「宅間窯」、「内ヶ磯窯」其々の構造、作品、陶工の違いに話題を絞って話をしました。

当日は、小山亘氏の御好意で「内ヶ磯窯」出土の「杵形茶碗」、「お向こうの融着した舟徳利」をお借りし、より具体的に「内ヶ磯窯」の作品を理解して頂くように心がけました。

話題を二点に絞った事で「宅間窯」、「内ヶ磯窯」の違いや、特徴をよく理解されて帰られたと思います。

しるやま青年部の方からは、講演に対する謝金と図録の販売にも協力して頂きました。また後日、丁寧なる礼状が届きました。

日隈 精二



● ギャラリー・アッシュュ 閉店のお知らせ

古高取を伝える会発足以来事務局として使用しました「ギャラリー・アッシュュ」は、本年八月をもって閉じる事になりました。御利用ありがとうございました。尚事務局は「めがねステージ」が引き続き運営していきます。今後ともよろしく願います。

東 陽一



● 東日本大震災義援金について

古高取・古唐津展の折り、東日本大震災のための「義援金」を募らせていただきました。そのご報告が大変遅くなってしまいました。金額二一、二〇九円を直方市の方

に届けさせていただきました。ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

● 「古高取・古唐津」展の目録販売について

「古高取・古唐津」展の目録は次の場所で販売しています。古高取や古唐津の作品が一〇〇点以上掲載されていますので、展示会をご覧になっていない方など、どうぞお買い求めください。

◎直方谷尾美術館

直方市殿町十三十五
電話 〇九四九一三二一〇〇三八

◎めがねステージ

直方市津田町七十四
電話 〇九四九一三二一三二一

◎田中茶舗

直方市古町六一
電話 〇九四九一三二一〇一四八

◎シフォン

宮若市本城一三五五一一
電話 〇八〇四二七三三三四三五



一冊 1,000円

〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

先日、古高取を伝える会の理事を務めて頂いておりました、山本元春さんが、お亡くなりになったことを知りました。焼物教室や会報でもお世話になりました。遅ればせながら、ご冥福をお祈りいたします。

「古高取通信」会報・NO10

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十三年九月三十日

〈現在の会員数〉

正会員 八十九名(九十日)
賛助会員 二十二名(三十二日)
団体 二団体(三日)

〈マイ茶碗の数〉

3761個

〈事務局〉

〒八二二一〇〇二六
福岡県直方市津田町七十四
TEL 〇九四九(二三)二三二一